

なんやねんの政治は!



汚職事件、ロリキ、飲酒運転、ののしり合い、
こんなニュースは聞きたくない!
芦屋のプライドどこいった!

今、必要なのは、政治の信頼回復です。
そして、みなさんに政治に参加していただかなければなりません。
みなさんの政治に対するイメージを変えるために、
ボクは「行政改革の火の玉小僧」として捨て身の覚悟で戦っていきます。
「なんやねん、今の政治は!」という思いの方、と一緒に芦屋を変えましょう!



行政改革の火の玉小僧

てらまえたかふみ

生年月日 1971年7月13日
本籍 兵庫県芦屋市春日町
免許・資格 訪問介護員1級・福祉用具専門相談員
福祉住環境コーディネーター2級
樽生インストラクター・大型自動車免許普通二輪免許ほか
動物占いはオカミ(リーダーシップがあって、聡明らしい)
野菜占いはオカミ(強烈な個性が持ち味だとか)
趣味 ドライブ(景色のいい場所へまっしぐら!)・入浴(三度のメシより好き)
スポーツ 野球(単野球の投手)・乗馬(ライセンスあり)

活動サポーター募集!
季刊紙「どっとねっと通信」をみなさんのお知り合いの方や、ご近所の方などにお配りしていただける「活動サポーター」を大募集!



てらまえたかふみ事務所
〒659-0068
兵庫県芦屋市業平町1-17 ラボII 201
TEL/FAX 0797-23-4750
E-mail office@ashiya-city.net



てらまえたかふみ公式サイト
あしやしてぃー・どっとねっと

<http://www.ashiya-city.net/>

経歴

いっぱい悔し泣きした強さがあります

- 0 歳 西宮市甲子園に生まれる。本籍地は芦屋市。幼少期はおばあちゃん子で育ったヤンチャ坊主。
- 9 歳 育ての親である祖母が死去。
- 14~16歳 翌年、父・幸郎が祖母の墓前で自らの命を絶つ。母子家庭の家計事情を理由に、野球の名門校への進学を断念。これを境にグレ始める。一時は50人近い不良グループのリーダーを務める。心の闇をさまよう。
- 2 3 歳 阪神・淡路大震災に被災し、自宅が全壊。以後、ボランティア活動に目覚め、地域活動にも参加するようになる。この頃に「政治家なんて大嫌い」で一念発起、庶民派の政治家を志す。
- 2 5 歳 独学で大学入学資格検定取得後、慶應義塾大学通信教育学部へ入学。
- 2 9 歳 地縁・血縁、お金なし、事前運動一切なしの選挙のタフに、和田山町で挑戦。敗戦するが、若者の政治参加に期待する温かい声援をいっぱいいただく。それが今、ボクの心の支えになっています。
- 29~31歳 福祉のスペシャリストを目指して猛勉強。ボランティアコーディネーターを経験すると共に、ホームヘルパー1級、福祉用具専門相談員、福祉住環境コーディネーターなどの資格を取得。



若いやつらには
次の時代のビジョンを
つくる責任がある。
だからさ……!

どっとねっと通信

vol.1
2003年
1月発行

てらまえたかふみ

行政改革の火の玉小僧

あしやしてぃー・どっとねっと

<http://www.ashiya-city.net/>



弱冠31歳。熱血民間サラリーマン てらまえたかふみが 芦屋市再建のために立ち上がります。



議会改革

**定数16議席以下、
報酬カットの継続**

多すぎる議員報酬!

芦屋市議会議員の報酬は年間にすると約1000万円、議会費も含めると約1,300万円に達します。芦屋ブランドの品格を失墜させてきた議会に、市民一人あたり4,000円も支払ってきたのです。こんな無駄な出費はありません!

議員報酬は、現状より15%カットさせ、年間5000万円の経費削減を実現させます。

議員定数は、今春からの定数24をさらに4年ごとの選挙で4議席ずつ削減して、定数16以下を目指すべきです。



行政改革

行政に民間の活力を導入

図書館打出分室の休館問題は、市が維持管理費の継続が困難と判断したためであり、その費用の大半は人件費です。ここに有償ボランティアを配置することで、人件費の大幅なコスト削減が可能になります。また可燃ゴミの収集も市職員より少ないコストを条件に民間業者へ完全委託できます。



広域行政圏の確立で市役所のスリム化

独自性の少ない部署は、近隣の市役所と統合できます。部署の細分化は人件費、物品費などの支出も多く、作業の効率性も優れません。

神戸市を例にすると、区役所が9つあるにも関わらず、市役所のみで統括できている部署が多くあります。150万人の都市に1台で済むコンピュータシステムとほぼ同じものが、9万人の芦屋市にも存在します。人材やシステムを統合、共有化する事で、コスト減と効率性の向上が期待できます。

高齢対策

「自立支援」にグループホームの充実

高齢者の自立支援を促進する意味では、介護老人福祉施設(俗にいう特養)以上に、必要な設備と言えます。グループホームでは、5~9人の高齢者が日常生活全般の活動を援助員と共同で行ない、地元地域で生活しながらケアを受けることができます。受け身のケアではなく、個々の残存能力を活かして、「自立」を促すことができます。



マンションの共有部分にもバリアフリーの徹底

市内には老朽化したマンションが多く、階段・廊下の手すりなどのバリアフリー化は徹底されていません。西宮市ではバリアフリー改修に対し、工事費の1/3まで、33万3千円を上限に助成する制度が設けられ、大きな反響を呼びました。芦屋市も、福祉先進都市を目指すために、速やかに実施すべきです。

地方分権

一番必要なことに投資する

芦屋市の年間予算のうち、約30%(133億円)は国や県からの依存財源です。それゆえ、国や県の方針にしたがって予算を使うことも義務づけられています。ですから南芦屋浜公園事業など必要性に乏しい計画でも見直しが必要と考えられる優先順位にしたがって使うことも可能になります。

国際社会

永住外国人に地方参政権を

永住外国人の地方参政権を認めたアイルランド、スウェーデン、スイスはいずれも「混乱」や「崩壊」を招いたとは検証されていません。芦屋市内には約1800人の外国人が在住しています。一定の条件を設けてそれを満たしているなら、自治体ごとに参政権を認めても良い時代になっていると思います。



財政対策

10万人都市の実現

平成14年度の予算中、約46%は市民のみならずと事業所からの税金です。全国的に見ても、これほど市民税に依存している自治体はありません。大きな企業や工場のない芦屋では、市民のみさんが財産そのものなのです。2025年頃をピークに日本の人口は減少に転じると予測される今、人口の確保は「地方自治体の生き残り策」となります。経営者感覚で先手を打つ必要があるでしょう。



環境対策

芦屋市もISO14001の取得を

これは、国際標準化機構(本部:スイス)によって企業や団体に環境負荷を低減する仕組みを構築、運用することを求めた資格です。取得した市役所では、休憩時間中の消灯、コピー紙や廃棄物の削減など、徹底したエネルギー減、コスト減に努めています。市職員や市民のみさんが環境保全意識を高い水準で持つために認証取得を目指すべきです。